

4月から食育農園としてイベントを定期的に開催していきます！
詳細は、秋庭農園のホームページで周知しますので、QRコードからご覧ください。



農家だから分かる食の大切さ 旬の古河のモノに触れ、感じて欲しい

「食」に関心を持ってもらいたいという思いから、農業を通してさまざまな取り組みを行う羽部さんと秋庭さんに食育にかける思いを伺いました。



土の温かさや香りを通して 食の大切さを伝えたい

右：AKIBA-noen(大山)
秋庭寛さん

左：AKIBA-noen(大山)
秋庭寛子さん

3年前に新規就農し、新しい農業のあり方を模索している秋庭さん。料理人だった寛さんとハーブティープレンダーだった寛子さんは、生産から販売までの過程が消費者に伝わるよう、SNSなどで情報発信したり、収穫体験などのイベントを数多く開催しています。

米や野菜の生産にとどまらず食育にも力を入れているのは、普段私たちが食べている野菜がどのように栽培されているかを見て触り、知ることが食への関心を持つ第一歩だと考えているからです。

特に、旬の野菜を園児自らが収穫し、採ったばかりの野菜をみんなが食べる体験は大人気。お店で売っている状態の野菜しか知らない園児たちの喜ぶ顔が見られてとてもうれしいと話します。

また、毎年行われる田植え体験では、初めて素足で田んぼに入り「地球の一部になった気分」「水や土に包まれる感じがワクワクする」と話す参加者の生き生きとした表情にやりがいを感じているそうです。

これからも農家だから伝えられる農業の面白さや素晴らしさを発信して、食べることの大切さを1人でも多くの人に伝えたい、そして、秋庭農園が第二のわが家となるような心安らぐ場所になりたいと話してくれました。



子どもたちの 喜ぶ顔を見るために

左：JA 茨城むつみ総和地区園芸部会長(高野)
羽部庄一さん

右：JA 茨城むつみ総和地区営農センター長
砂川一夫さん

総和地区園芸部会長を務める羽部さん。JA 茨城むつみ総和地区営農センターと協力して、11月にキャベツ630キログラム、1月に白菜364キログラムを市内の小中学校に給食の材料として無償提供しました。

きっかけは、部会員が生産した安全な古河の野菜を子どもたちに食べてもらい、健康に成長してほしいという強い思いからでした。相談を受けたJA 茨城むつみ総和地区営農センターでも、食育の一環として子どもたちに地元の新鮮な野菜を届けたという同じ思いがあり実現できました。

子どもたちに新鮮でおいしいものを食べてもらうため、野菜は前日に収穫したものを提供しています。そこには、新鮮な野菜は甘みがあり、みずみずしいことを知ってほしいという思いが込められています。

昨年からの活動を始めたばかりですが、孫や近所の子どもに「おじちゃんの野菜がすごく美味しかったよ」と言ってもらえるよう、これからも頑張りたいと羽部さんは話します。旬の野菜をおいしく食べ、1人でも多くの子どもたちが野菜好きになるよう、そして農業への興味が持てるよう、これからもこの活動を継続していきたいと笑顔で話してくれました。

「おいしかったよ」の笑顔のために

古河で栽培されているたくさんの農作物。毎日食べるものであるからこそ、より安全でおいしいものを栽培することに全力を注いでいます。私たちの健康を間接的に支えている農家の人たちに、「ありがとう」「おいしかったよ」という感謝の気持ちを込めて、今日も笑顔で「いただきます」。

